



WWF Indonesia
Kantor Taman A9, Unit A-1,
Jl. Mega Kuningan Lot 8-9/A9,
Kawasan Mega Kuningan
Jakarta 12950
Indonesia

Tel: +62 21 576 1070
Fax: +62 21 576 1080
nfoead@wwf.or.id
www.wwf.or.id

2004年7月13日

各位

このレターは、WWF インドネシアが最近発表した2つの報告書へのアジアパルプアンドペーパー（APP）の2004年7月3日付け回答に対応するものです。

WWFは、APPのインドネシアにおける活動は、インドネシアの法規に常に従っているわけではないと結論しました。この報告書の中で**WWFは、APPがテッソ・ニロ国立公園提案地の内部で違法に伐採されたパルプ材を購入したことについて、反駁できない証拠を発表しました。**最近の衛星画像では、地球上で最も多様性が高い森林の1つであるテッソ・ニロの森が、このような伐採活動によって破壊されている様子が明らかです。

WWFに対するAPPの回答は、慎重に練り上げられ、誤報が多く含まれています。添付書類1の「APPの違法伐採への関与についてのWWFインドネシアの報告書に対する同社の回答の分析」の中で、WWFはこれらの誤報のいくつかを訂正します。

この付属書類から、以下にその数例をご紹介します：

1. **APPが2004年4月にテッソ・ニロ国立公園提案地内で伐採された違法材を購入したというWWFの結論**に関して、APPは問題の伐採トラックBM8885ATが違法材を積載し、APPに木材を運搬したことは認めました。しかしAPPは、このトラックは違法材を“第三者”に配達し、合法材を他の場所で積みなおして、最終的にその合法材をAPP工場に運搬したと反論しました。

実際は、WWFインドネシアの森林犯罪調査ユニットは、このトラックを国立公園提案地内からAPP工場まで追跡し続けました。そして、このトラックはAPP工場に入るまで、一度も違法材を降ろしていません（詳細は、添付書類1の第5項をご覧ください）。

2. **APPの木材供給者であるMapala Rabdaがブキバツ野生動物保護区の内部で違法に伐採を行ったというWWFの結論**に対して、APPは、独立の“複数の利害関係者チーム”が、同社はブキバツ野生動物保護区の再構築された境界線の外部で伐採を行っていたと結論したと、回答書の読者に対して主張しています。

実際は、APPはこの“複数の利害関係者チーム”に対し、インドネシアの林業省が1999年と2003年に作成した公式の地図を提供しなかったのですが、回

In Indonesia registered as:
Yayasan WWF Indonesia
Chairman – Board of Trustees:
Kemal Stamboel
Chairman – Executive Board:
D. Ashari

Registered as:
WWF-World Wide Fund For Nature
WWF-Fondo Mondiale per la Natura
WWF-Fondo Mundial para la Naturaleza
WWF-Fonds Mondial pour la Nature
WWF-Welt Natur Fonds
Also known as World Wildlife Fund



答の中でそのことを読者に知らせていません。APPは同チームに、同社が1998年に作成した非公認の“再構築された地図”しか提供しませんでした。公式な政府の地図に拠れば、このAPPの木材供給者はブキバツ保護区の内部で違法に自然林を伐採しています（詳細は、添付書類1の第1項をご覧ください）。

3. APPは、WWFに建設的な関係を維持する意思がないことに失望している、と書いています。

実際は、多くの団体からのアドバイスに反して、**WWFはAPPに対し、benefit of the doubt**（法律用語：疑わしきは被告人の利益にするという原則、証拠不十分のため有罪とせず無罪とすること）**を与え、同社が持続可能性アクションプランを作成・実施するよう、数年のあいだ、誠意を持って交渉を続けてきました。**この交渉の間も、APPはスマトラの自然林を大変な速度で皆伐し続けました。同社は、大変な遅延のあと、ついにアクションプランを作成しましたが、それはWWFとAPPが同意書の中で合意した諸条項には、到底達しないものでした。その後行われたアクションプランを改善するための交渉が失敗に終わった際、WWFは同社との一切の交渉を終了することを決定しました。WWFにとって、同社を信じることは大変難しいのです。WWFは、これ以上、APPにbenefit of the doubtを与えることも、誠意を持って交渉することもできません。

上記に示した様な誤った情報や、いわゆる「持続可能性アクションプラン」の特質などを踏まえ、WWFではこのたび、同社の活動についてWWFが理解するところの詳細を述べた、APPに関するポジション・ステートメント（添付書類2）を発表することになりました。このステートメントは、世界的に貴重な価値の高い森林の保護へ貢献するために、APPと取引のある諸団体は何をすれば良いのか、という点に関しての提案も含んでいます。

APPとの交渉を続けていた間、WWFは同社のバイヤーに対し、同社との契約を尊重しながら、APPに対して、現在の紙パルプ市場は紙供給者が環境に配慮することを求めているとアドバイスするよう働きかけてきました。しかし、今やWWFはこの方針を続けることはできません。本日、WWFはAPPのすべてのビジネスパートナーに対し、同社との関係を再考することを求めます。

さらに、WWFはAPPのすべてのビジネスパートナーに対し、APPとその他のインドネシア木材・製紙企業を区別して対応するよう、アドバイスします。APPのビジネス活動は、インドネシアの木材・製紙産業全体の評判を大きく傷つけてきました。

しかし、インドネシアの森林保護へ貢献し、同国の法規に従う意思のある企業は、国際市場の中でその製品を販売するチャンスを与えられるべきです。



アジアパルプアンドペーパーの活動に不満を募らせるのは、WWF だけではありません。2004年6月28・29日、インドネシアの新聞紙 Kompas と Riau Pos が、法律で禁止されているにも関わらず、**コンセッションを整地するために火を使った**として、**リアウ州政府が、アジアパルプアンドペーパー及びシナルマスグループと強い関連を持つ4社に対する訴訟を準備中であると**報じています。これらの企業には、2003年中頃に東南アジアを覆った煙を引き起こし、インドネシアとその近隣諸国に多額の医療経費を生じさせた責任があると考えられています（添付書類3）。

Sincerely,

Nazir Foead
Director, Species Program
WWF Indonesia

添付書類 （ <http://www.wwf.or.jp/lib/forest/index.htm> に掲載）

添付書類 1: APP の違法伐採への関与についての WWF インドネシアの報告書に対する同社の回答の分析

Analysis of APP Response to WWF Indonesia's Reports on the Company's Involvement in Illegal Logging （オリジナル（英語）PDF 形式 564KB）

仮訳（日本語：PDF 形式 256KB）

添付書類 2: インドネシア、スマトラのアジアパルプアンドペーパー工場が消費する木材源に関する WWF の懸念

Statement Summarizing: WWF Concerns over the Origin of Fiber for the Mills of the Asia Pulp and Paper Company in Sumatra, Indonesia （英文オリジナル：PDF形式：136KB）

仮訳（日本語：PDF形式:63KB）



添付書類3: 政府がアジアパルプアンドペーパー関連企業を森林火災に関して告訴予定

Government Plans to Sue Asia Pulp and Paper Over Forest Fires (PDF 形式
236KB)

仮訳 (日本語 : PDF 形式 417KB)